

令和5年10月

大野市教育委員会定例会
会議録

日 時：令和5年10月30日（月）午後3時30分～午後5時13分

場 所：大野市役所 大会議室

大野市教育委員会10月定例会 次第

令和5年10月30日（月）午後3時30分～
大野市役所 大会議室

1 開会

会議録署名人 馬道委員 松谷委員

2 9月定例会の会議録の承認について

3 教育長重要事項報告

4 議事

議案第73号 令和5年度教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検評価
報告書案について

5 付議事項

- 1) 令和5年9月第436回大野市議会定例会の結果について 資料1
- 2) 大野通学区審議会からの答申について 資料2 資料2-1
- 3) 中学校連合音楽会の廃止について 資料3
- 4) 11月行事予定について 資料4

6 その他

- 1) 保育園業務支援システム導入・運用業務公募型プロポーザルの結果に
ついて 資料5
- 2) 9月の業務報告について 資料6
- 3) その他 資料7

7 閉会

<出席者>

	教育長	久保俊岳
	委員（教育長職務代理者）	馬道保
	委員	松谷由美
	委員	松田輝治
	委員	羽生たまき
事務局（説明者）	事務局長	横田晃弘
	教育総務課長	指岡哲郎
	学校教育審議監	山川龍一
	こども支援課長	山崎勝彦
	生涯学習・文化財保護課長	佐々木伸治
（書記）	教育総務課課長補佐	森永奈緒子

<傍聴者>

なし

【開会】

【教育長】ただいまから大野市教育委員会10月定例会を開会する。

【教育理念唱和】

【会議録署名人】

【教育長】本日の会議録署名人は、馬道委員、松谷委員にお願いします。

【9月定例会教育委員会会議録の承認について】

【教育長】事前にお送りした会議録案について、ご意見、ご質問等があればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【教育長】9月定例会会議録については事務局からの提案どおり承認してよろしいか。

——<異議なし>——

【教育長】事務局の提案どおり承認する。

【教育長重要事項報告】

【教育長】本日は、不登校対策について申し上げます。先般、国公立学校はじめ認知件数や不登校の人数を調べる2022年度の文部科学省の問題行動・不登校調査の結果が発表された。全国の小中学校で30日以上欠席した不登校の児童生徒は、29万9,048人と前年度比で22.1%の増、人数で言えば5万4,108人増えて過去最高を更新した。

令和2年度からここ3年間の推移を万の単位の概数で見ると、令和2年度が19万人、続いて24万人、29万人と全国では毎年約5万人の増となっている。福井県においても、令和2年度が866人、続いて1,087人、1,404人となっており、同様の傾向を示している。

そんな中、大野市は減少の結果が出た。この調査は文部科学省が統計法に基づく一般統計調査として実施しているため、本市の不登校の数値までは申し上げられないが、1,000人あたりの人数で言えば、昨年度が20.8人であったのが本年度は19.9人とわずかではあるが減少傾向となった。

その要因として考えられるのが、市内全学校を挙げて取り組んでいる2本柱のきめ細かな対応である。1本目の柱は、魅力ある学校づくりである。大野市は令和2年度、令和3年度と、国立教育政策研究所から委託を取り付け、魅力ある学校づくり調査研究事業に取り組んだ。その後も、そこから得られた最新の考え方と手法を継続し、児童生徒の居場所づくりと絆づくりに取り組んでいる。

2本目の柱は、結の故郷支援員の適正配置である。授業や行事の中でそっと寄り添う特別教育支援員、悩み相談やクールダウンを温かく受け入れる相

談員など、子どもたちのそばには常に結の故郷支援員がいる。そうすることにより、子どもたちの自尊感情の保持に努めている。このように、教員が専門的に進める魅力ある学校づくりを基盤に、市内の大人が支援となりそっとサポートするきめ細かな支援が、不登校の未然防止に効果を発揮しているものと考えている。

本市の魅力ある学校づくりアドバイザーをお願いしている元国立教育政策研究所調査官の中野澄（きよし）教授は、「コロナ禍が原因で不登校が増えたのではない。増加傾向に拍車がかかっただけだ。コロナ禍が終息しても、不登校が自然に減ることはない。適切な対応が求められる」と指摘されている。本市において、不登校に悩む児童生徒数が今回は減少傾向を示したが、決して予断は許さない。依然として高い水準にあることに変わりはない。さらなる精進を期するものである。

【議事】

【教育長】議案第73号 令和5年度教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検評価報告書案について、事務局の説明をお願いします。

——<事務局長説明>——

【教育長】議案第73号についてご意見、ご質問等があればお願いします。

【馬道委員】今ほどの説明で大変よく分かったし、点検評価委員からも高く評価されていて、本当に素晴らしい評価だと思う。そこで大野市学力調査事業について質問をしたい。評価書の25ページの3段落の中に「本事業は12月に実施し、結果は、県平均を上回った」と記載があるが、県平均値を上回ったということは、大野市だけではなく、福井県の中でも他市町において同じような学力調査をしているのか。

続けて感想を述べさせてほしい。その次ページの評価表の成果指標に、全国学力調査と比べて小学校は県平均値以上、中学校は概ね県平均値以上と記載がある。大野市独自の学力調査を分析して、日頃の授業改善を行い、それが十分身について小学校で力をつけて、中学校でそれを受け継いで結果が良くなっていると捉えている。ところが、今月の市報に載っている本年度の学力調査の結果を見ると、中学校が少し心配だと感じた。全国平均や県平均と比べて丸が一つだけで、あとは全部三角だった。マイナス2点までなら丸になるので、どの程度の丸なのかということも含めて、中学校の今年度の学力調査の結果は少し心配だと感じている。大野市独自の学力調査を始めて3年経ったが、それを振り返って、さらに続けていくと良いのか、効果はどうなのかという検討をしてみしてほしい。その費用が140万ぐらいかかると思うが、例えば、不登校の児童生徒の助けになるような場所や学力保障のために、結の故郷支援員とは別のボランティアという形で、子育ても終えられた中高年の方たちを集めて、教室に入れないう子とか、学力がついていけない子たちがいる教室に入ってもらって、学力を保障してあげられないかと思う。

【学校教育審議監】学力調査の県平均というのは、26ページの取組み状況確認シートの成果指標と達成状況に書いてあるが、全国学力学習状況調査の大野市の平均値と県の平均値を比較した結果がどうかということを事業の成果として図ることにしている。25ページは、本事業は12月に実施し、その結

果、全国学力調査における県平均値を小学校においては上回っているという意味である。この大野市独自の学力調査は、全国規模で行われているが、都道府県ごとの平均値は示されていないので、この学力調査の県の平均値を大野市が上回ったという意味ではない。あくまでも成果指標である全国学力調査の県の平均値を小学校は上回っているという意味である。

【馬道委員】そうすると、25ページの文章の意味は少しおかしい気がする。大野市が市独自の調査をしていて、その結果はと続いているので、文章が繋がらないような気がする。意味は理解できた。

【教育総務課長】意味が通じるように文言を修正したい。

【学校教育審議監】大野市が学力調査を3年間やってきた成果については、毎年経年比較を行っており、学年が上がってどうなったか、同じ学年で今年の子はどうかというような比較も行っている。その結果、今年の全国学力学習状況調査で中学校は三角が並んでしまった。今回、テストを受けた中学3年生はコロナ等もあったことと、それから5年生で県学力調査「SASA」を受け、6年生で大野市の学力調査を受け、中学1年生になる時にこの調査が始まったので、中学校での成果があらわれてくるのを見たいと考えている。来年度からも、この学力調査は継続をしていきたい。

【馬道委員】2点目の質問だが、不登校児童生徒について、教育長の重要事項報告の中で今年度の状況を話していただいた。報告書の22ページの達成状況の人数が成果指標に対して、小学校も中学校も2倍ぐらいある。教育長からは、本年度は減少したという話があったが、全体的に見ると、この調査を始めて10年間ずっと県全体としても増えている状況にあり、若干令和3年度をピークに減っているようではあるが、やはり多いと心配している。不登校だけではなく、実際に学校では教室に入れない児童生徒や、保健室にいる児童生徒、教室にいてもじっと座っていない児童生徒もいる。そういう子たちの居場所づくりや、学力の保障をしてあげたいと思う。評価委員会からの評価の中にもあるように、結の故郷教育支援員の配置事業などで本当に助かっている子どもたちが多いと思うが、予算的にもう少し増やしてもらえたら良いと思う。どの学校にもそういう児童生徒が多いと思うし、これまで2日間、学校訪問をしてきたが、校長先生からもそのような話が出ていたと思う。

【教育総務課長】教育支援員や教育相談員の充実ということで、さらに手厚くしてほしいというご要望だと察する。確かに支援員や相談員は、学校サイドからも非常に重要な役割を果たしてくれて現場としてもありがたいという声が教育委員会にも届いていて、私ども十分承知している。これから当初予算の編成時期に入るが、学校の再編で中学校が5校から2校になる。学校数は減るが児童生徒数は変わらないという中で、支援員や相談員の配置をどのようにしたらよいかということも一生懸命練っている。今この答えははっきり申し上げられないが、学校の実情もしっかりと把握させていただいた上で、適正な人員の配置を進めていきたい。

——<その他意見・質問なし>——

【教育長】議案第73号について、先ほどご指摘の点を修正して、承認してよろしいか。

——<異議なし>——

【教育長】議案第73号については、提案どおり承認する。

【付議事項】

【教育長】付議事項1) 令和5年9月第436回大野市議会定例会の結果について、事務局の説明をお願いします。

——<事務局長説明>——

【教育長】ご意見、ご質問などがあればお願いします。

——<意見・質問なし>——

【教育長】付議事項1) については、以上とする。

付議事項2) 大野市通学区域審議会からの答申について、事務局の説明をお願いします。

——<学校教育審議監説明>——

【教育長】ご意見、ご質問などがあればお願いします。

【松田委員】有終西小学校から開成中学校へ全員が行くという話だが、保護者の説明会の内容からすると、PTA内部での議論が若干踏み込みが足りないことと、土台が固まっていないのではないかと感じる。本当に皆さんが望むような方向でしっかり土台を固めて、保護者の中でも意見統一をして進めていかないと、混乱が起きるような気がする。あまり拙速に物事を進めずに、丁寧に進めていただければありがたいと思う。

【松谷委員】私は教育総務課の方ではきちんと順番に説明していただいたと思うが、やはり何か個人的な保護者の気持ちなどが錯乱していたのかと思う。でも、有終西小学校区の保護者の方々に話を伺う機会があったが、結局、令和6年度の中学校統合時に、有終西小学校が一つの中学校に行くというのが早急すぎるという、時期的なことが納得できなかったという印象を受けた。子どもたちの意見をしっかり聞いて、気持ちの段階を踏んだ上で、早急ではなく慎重に行っていただけたらと思う。

【羽生委員】校区の見直しについては、再編の検討委員会の中でも何人かの委員が、たいへん大きな課題ということで提案されていたように思う。ただ有終西小学校の保護者のアンケートを見せていただいた時、方向性が決して一本ではないと感じた。多くの方がそれぞれの思いや意見を多岐にわたり書かれていたので、個人的に危惧はしていた。説明会という身近な場でたくさんの意見を聞いたりしながら、有終西小学校の校区の見直しが後に続く前例にもなるので、子どもたちにとって何が最優先されるのかに重点をおいて、次につながるよう進めていってほしい。

【教育長】皆さんの意見としては、答申どおりの形では少し違和感があるということかと思う。事務局が申し上げたように、校区を変更する時期の問題についてもう少し子どもたちや保護者の皆さんと意見交換をしながら、方向を探りながら進めさせていただくということでもよろしいか。概略の報告の一番最初に参加者の人数が書いてあるが、6年生の保護者が一番多かった。そして最後の方に記載されたように、説明会后に2名の保護者の方から開成中学校へ進学したいという相談も受けたという状況である。またいろいろな意見を承りながら進めていきたい。具体的には、11月中に子どもたちの気持ちを聞くアンケートをさせていただいたり、有終西小学校の保護者の方と、学年ごとに懇談をするようなことも含めて、丁寧に慎重に進めていきたいと思う。

その状況については、11月の定例会にも報告させていただくのでよろしく
願います。

——<その他意見・質問なし>——

【教育長】付議事項2)については、以上とする。

付議事項3) 中学校連合音楽会の廃止について、事務局の説明をお願いします。

——<学校教育審議監説明>——

【教育長】ご意見、ご質問などがあれば願います。

——<意見・質問なし>——

【教育長】付議事項3)については、以上とする。

付議事項4) 11月行事予定について、事務局の説明をお願いします。

——<各課長説明>——

【教育長】ご意見、ご質問などがあれば願います。

——<意見・質問なし>——

【教育長】付議事項4)については、以上とする。

【その他】

【教育長】その他1) 保育園業務支援システム導入・運用業務公募型プロポーザ
ルの結果について、事務局の説明をお願いします。

——<こども支援課長説明>——

【教育長】ご意見、ご質問等があれば願います。

【松田委員】公立3園とあるが、4園ではないか。

【こども支援課長】和泉保育園は、園児5人に対し保育士4人なので、デジタル
の効果が低いということもあり、今までどおり丁寧に手書きでやらせていた
だきたい。

【馬道委員】公立保育園にこのような業務支援システムが導入されるということ
について、小中学校にも業務改善ということで県は業務システムを取り入れ
ているが、大野市は参加していない。参加している市町は増えてきていると
思うが、大野市は今後、小中学校にも導入を考えているかお聞きしたい。

【教育総務課】小中学校については、県が運用している校務支援システムを今年
の4月から中学校に導入し、本格運用をしている。次年度には小学校へ校務
支援システムを入れる予定である。このシステムを入れると、出席の確認な
ど職員の軽減負担ということにもつながるため、大野市としてはそのような
方向性でやっている。

——<その他意見・質問なし>——

【教育長】その他1)については、以上とする。

その他2) 9月の業務報告について、説明は省略するが、ご意見、ご質問
等があれば願います。

——<意見・質問なし>——

【教育長】その他2)については、以上とする。

その他3) その他で、事務局から何かあるか。また、委員からも何かあれば
ご発言いただきたい。

【学校教育審議監】学力調査の結果についての資料を載せている。市報にも掲載

させていただいた。今回の学力学習状況調査については、小学校は全国平均、県平均と比べても概ね良好であるという結果だが、中学校は、特に県平均と比べると成績が芳しくないという結果であった。良好だった点や改善課題とその改善策については資料に書いてあるが、今後の四つの取り組みという箇所をご覧いただきたい。この結果を受けて、各小中学校の教頭に全員集まってもらい、半日かけて学力調査の結果の分析や今後の取り組みについての研修会を行った。その際、県の教育研究所で学力学習状況調査の担当を5年間していたことがある教頭から意見をもらい、教頭14人で相談をした。子どものやってみたいということを実現させることは、興味関心を持つような課題をいかに自分ごととして捉えさせるかという取り組みが大事だろう。やってみたいと思った時に、それを実現する基礎的な知識や技能があって、それが発揮できる場でなければならないだろう。やっただけではなくて、それを外に向かって発信するということが大事だろう。先ほど行事予定の中に、アートドリーム事業というのがあったが、芸術に触れるというだけではなくて、先輩たちが取り組んでいる姿を見ることによって、憧れを持ち、それを目指す夢を持つことも大事だろう。そのためには、様々な人と交流をしたり、様々な体験をさせることが必要だろうと考える。これらを受け、各校長には、自校の学力学習状況調査の結果をもとに、自校独自の学力向上のプランを提出するように指示をしている。それらも確認して、今後の私どもの学校への支援指導に活かしていきたいと考えている。

【教育長】今の説明は全国学力調査の対応となる。この後、県のSASAと呼ばれる学力調査が、小学校5年生と中学校2年生対象にあり、小学校の学力調査が12月にある。その対応はどのような予定か説明をお願いします。

【学校教育審議監】教頭の研修会を受けて、各校で早速動きが見られている。これまでは特に小学校だと、一つの教科で一つの単元が終わるとテストをしていた。しかし、学力調査では1年分とかそれまで習ったいろんな分野からの問題が出されたり、複数の資料を組み合わせて考えなければならなかったり、非常に複雑な問題になっている。そういうことが求められているということを念頭に置いて、県はSASAと言われる県の学力調査をし、小学生が取り組んでいる市の学力調査も実施しているので、当然そういう力をつけることを念頭に置いた授業をしなければいけないだろうと考えている。各学校が動き始めており、先日もある小学校で算数の時間に、教科書だけではなくて、学力調査に出てくるような問題をチャレンジとして授業で取り組んで、みんなで知恵を出し合って解き方を考えるという授業にも早速取り組んでいるところもある。来年の学力調査だけではなくて、近々やってくる県のSASAや市の学力調査に向けての取り組みが始まっている。

【教育長】全国学力調査が終わった後の分析は教頭会にお願いをした。県の結果が出たら、今度は研究主任に集まってもらい、しっかり分析をしてもらう。大野市の小学校の学力調査については、学校から代表1人に集まってもらい、分析会議をする。そんなふうにしてしっかり分析して対応を考えていく組織的な対応をしていきたいと思う。今までは教育委員会として分析はして、学校にもお願いをしていたが、それに一步踏み込んで、組織的に分析をし対応していくという方向に舵を一步進めていきたいと考えている。そして、授業改革をしっかり進めていく。結果が、小学校は丸だが中学校が少し心配な状況で

ある。大野市独自の学力調査を小学校で3年間やってきた。それは子どもたちの学力をはかるということもあるが、もう一つ大きな意味は、教員の指導力の向上である。授業をどう変えるかというポイントがある。その意味では3年間続けてきて、小学校の指導力はある程度安定してきているのではないか。これをどう中学校につなげていくかが課題だと思っている。しっかり組織的に取り組んでいって、子どもたちの持っている力をちゃんと表現できるようにしていきたい。決して子どもたちの力が足りないとか、教員の指導力が足りないというのではなく、どう表現していくかというところを授業改革しながら取り組んでいきたいと思っている。

【松田委員】これから先の子どもの安全安心と、保護者の安心ということで、中学校が統合されてスクールバスで通う子もいるが、自転車で通学する遠隔地の子もいると思う。聞くところによると、携帯電話の使用が校則で禁止されているそうだ。自転車通学の子や遠隔地から通っている子が、朝は天気がよかったけど、帰る頃になったら雨が降っているとか、朝からずっと雨の日とか、急に部活動がなくなって早く帰らなければならなくなった時などに、家に連絡をする方法としては校内に公衆電話はあるらしいが、結構混み合うと聞いている。親も安心できて、子どもも気楽にできる方法で用途を制限して、学校で携帯電話が使用できるような配慮がしていただけないかと思う。市内にも困っている子どもや保護者がいると思う。特に来年4月からは通学距離が広範囲になってくるので、要望もあるのではないか。校則は多分学校ごとに決まっていると思うが、携帯電話だけでなく他にもいろいろなことで、これなら許可してもいいという方法を統一して決めていくことができれば良いと思う。

【学校教育審議監】本当に個人的な思いではあるが、学校生活に支障がなく、個人でしっかり管理ができるのなら使用は構わないとは思っている。私事だが、娘が通っていた高校では、登校すると担任の先生が預かり、帰りに返してもらうという方法だった。しかし、トラブルがなくてよかったと思っている。先生に預けたらデータが消えたとか、先生に預けたら設定が変わったというようなことになっても責任は持てない。個人的には、学校生活に支障がないように自分で管理ができるのならば、これからの時代はそういうこともだんだん認めていかざるを得ないと思う。ただ、学校として決めていくことになると、いろいろな心配事もあるとは思っている。

【教育長】今の話が基本的な方向だとは思っている。中学校の再編に向けて、5人の校長が毎週集まっているいろいろな話をしている。生徒会のことや校則のことなど子どもたちの意見もしっかり聞きながら、どの学校も子どもたちが自分の生活のことを考えて、ルールを決めたりするようになっているので、中学校が2校になってまた具体的に検討していくと思う。ちょうど良い機会だと思うので、学校の方にも伝えたい。

【松田委員】校長会や教頭会の時などに、こういう話もあったということで投げかけをしていただければありがたいと思う。

【教育長】高校と同じように通学範囲が非常に広がって、距離も遠くなるので、また学校の方とも協議したいと思う。

【松谷委員】資料1の廣瀬議員からの質問に対する回答というところで質問したい。和泉地区の生徒が陽明中学校に通う新たな市営バスの路線の説明のとお

ろで、月曜日と木曜日は学校の終了時間が不規則であるため、と書かれているが、月曜日は部活がないことは分かるが、木曜日がどのようなになっているか教えてほしい。例えば開成中学校は部活の取り組み方が変わってきているが、陽明中学校の部活のやり方も変わってきているのか。今、部活も任意に変わってきているので、中学校1年生から部活動を行わない子も出てきていて、来年度の合併でまたそういう子たちも増えていくと思う。その辺りの細かな調整などができているのか聞きたい。

【教育長】陽明中学校も木曜日は部活動をしていない。開成中学校と同じ対応である。木曜日には、子どもたちが自分たちの生活を良くしていこうと生徒会活動や委員会活動など、自主的な活動を取り入れているというのが今の陽明中学校のやり方である。陽明中学校も開成中学校も他の学校も、子どもたちの自主性を確保していこうという活動をしている。木曜日の6限目は、活動の時間が長くなったり短くなったり、或いは活動がない日もあるかもしれない。そういう理由で不規則なので、バスの運行時刻がはっきり決まらないということである。ちなみに開成中学校では、その時は早く帰ってもいいし、担任へ悩み相談をしてもいいし、支援員と話す時間にしてもいい。子どもと大人が触れ合えるような時間になっている。他の学校でも自由デイといって、自分たちで勉強したり、委員会の活動をしたり、いろんな活動を部活に変えてやっているというように変わってきている。また、学校訪問に行かれた時に、そのようなことも聞いていただければ校長がしっかり説明してくれると思う。

【羽生委員】本日は、点検評価や学力調査などいろいろなことの報告を受け、協議させていただいた。中学生の学力アップについての具体的な今後の目処も聞かせていただいた。ただ、2日間学校訪問をさせていただいた中で、表面上や数字には表れていないかもしれないが、例えば算数や数学で、習熟度別のクラス分けで授業をしていただいたり、教科担任制で、専門の先生が横の学年ではなくて、縦の学年を受け持つことで、早い段階で、できないこと分からないことを拾い上げてつなげていくという授業の様子を見せていただいた。具体的な策というのももちろん大事かと思うが、現場の先生が本当に丁寧でスキルの高い授業をされていることがとても感激した。このラインは非常に大事だと思うし、ある学校の校長先生が、できない子や心配な子をバックアップして応援するのはもちろん大事だが、当たり前にとただ一生懸命頑張っている子たちの、目配り気配りを取りこぼさないようにしたいという言葉が強く胸に残っている。評価とかデータ化というのは大事なことだと思うが、このベースになっているものを残したまま、ぜひ今後も取り組んでいただきたい。

【教育長】みんなと言われる子たち、普通にしている子たち、この子たちは毎日毎日しっかり頑張ってくれているので、その子たち一人一人にちゃんと視線を注いで、言葉をかけて認めてあげなくてはならないと思う。冒頭に申し上げた大野市のアドバイザーをしていただいている中野澄先生は、魅力ある学校づくりの指導をしていただいた国立教育政策研究所の元調査官だが、子どもが100人いたら、気になる子は3人なり5人なりで、この子たちには大人の目がいく。でも、いつも一生懸命に頑張っている95人や、97人の子たちは、みんなという一括りにされがちで、それは絶対に駄目だと言われる。

100人いたら100人の一人一人をしっかりと見ていくことが大切であると力説されている。そのことを分かっていただけでありがたいと思う。

【閉会】

【教育長】 これをもって、大野市教育委員会10月定例会を閉会する。

午後17時13分終了

令和5年10月30日

(馬道委員)

(松谷委員)